

評価日： _____

性別： _____ 男 _____ 女

Gross Motor Function Classification System (GMFCS) level： _____

PART I：頭部と体幹の姿勢制御 PART I 合計点（最大 36 点）： _____PART II：座位と立位の姿勢制御 PART II 合計点（最大 64 点）： _____

ECAB 合計点（最大 100 点）： _____

謝辞：この評価は the Movement Assessment of Infants (Chandler LS, Andrew MS, Swanson MW. Movement Assessment of Infants: A Manual. Rolling Bay, WA98061: P.O Box 4631; 1980)と Pediatric Balance Scale (Franjoine MR, Gunther JS, Taylor MJ. Pediatric balance scale: a modified version of the berg balance scale for the school-age child with mild to moderate motor impairment. Pediatr Phys Ther. 2003;15(2):114-128)の項目を使用して作成された。

子どもが GMFCS レベル III、IV または V に分類されている場合、項目 I からテストを開始する。子どもが GMFCS レベル I または II に分類されている場合、PART II の項目 8 から開始し、PART I の全得点が与えられる。子どもが片麻痺の場合、項目 4 から開始し、項目 1～3 の全得点が与えられる。

子どもの実行できない項目が明らかになるまでテストを続ける。

PART I：頭部と体幹の姿勢制御

子どもの能力を最もよく表す答えに丸をつける。よくわからない場合は、低い方の得点にする。必要に応じて左右両方に得点をつける。左右の得点によって左右差の分析ができる。

ECAB 1 頭部の立ち直り一側方

検者に背を向けた状態で子どもを膝の上に座らせる。体幹の側面を支え、子どもを片側に 45 度までゆっくりと傾ける。頭部の反応を観察する。この手順を両側少なくとも 2 回繰り返し、試行の間には、子どもを安定させるために正中で一旦止める。

(a) 左 (b) 右

- | | | |
|---|---|---|
| 3 | 3 | 子どもは一貫して頭部を直立位に修正する |
| 2 | 2 | 子どもは体に合わせて頭部を保持し、徐々に動かした場合は直立位に修正することができる |
| 1 | 1 | 子どもは一瞬頸部の筋を収縮させるが、一貫して頭部を体に合わせることができない |
| 0 | 0 | 子どもは頭部を体に合わせようとしない |

ECAB 2 頭部の立ち直り一伸展

子どもを腹臥位にして、少なくとも 30 秒は横から観察する

- 3 子どもは垂直まで正中で簡単に頭部を上げ、この位置を 30 秒間維持する
- 2 子どもは頭部を垂直まで持ち上げるが、この位置を維持できない。
頭部が正中で保持されていない可能性がある
- 1 子どもは頭部を持ち上げるが、垂直位までは達しない
- 0 子どもは頭部を持ち上げない、または持ち上がらない

ECAB 3 頭部の立ち直り一屈曲

子どもを背臥位にして、足を手前に向ける。子どもの手首を把持する。もし肩甲帯の不安定さや弱さが疑われる場合は、子どもの上腕を把持する。子どもを座位になるまでゆっくりと引き起こし、子どもが最大限積極的に参加できるようにする。頭部の反応を観察する。子どもが検者を怖がっているように思われる場合は、保護者にこの項目を実施してもらうように依頼する。

- 3 子どもは背臥位から座位までの動作全体を通して胸の方に顎を引く。
初めの頭部の遅れがわずかにあるかもしれない。
- 2 子どもは顎を引かないが、動作全体を通して頭部を体に合わせる。
初めの頭部の遅れがわずかにあるかもしれない。
- 1 子どもは運動の一部のみで頭部を体に合わせて保持する
- 0 子どもは一瞬頸部の筋を収縮させるが、頭部を体に合わせるができない

ECAB 4 体幹の回旋

子どもを背臥位にして足を手前に向け、腹臥位に転がるよう促す。子どもが自力で転がる場合、骨盤と肩甲帯の間が明確に回旋したうえで再び整うかどうかを確認する。子どもが自力で転がらない場合や明確な体幹の回旋を示さない場合は、子どもの股関節と膝関節を屈曲させ脚が身体を横切るように持つてくることで体幹を回旋させるよう試みる。体幹回旋の制限、過度の可動性、寝返って腹臥位になることによって肩と骨盤を再び整える子どもの能力に注目する。この項目で重要なことは体幹回旋の質であり寝返りの技術ではない。

(a) 左 (b) 右

- | | | |
|---|---|--|
| 3 | 3 | 子どもが背臥位から腹臥位に自力で転がる場合、骨盤と肩甲帯の間が明確に回旋したうえで再び整う |
| 2 | 2 | 検者が子どもの体幹を回旋すると、骨盤と肩甲帯を自発的に再び整えて腹臥位まで転がる |
| 1 | 1 | 検者が子どもの体幹を回旋すると、骨盤と肩甲帯を再び整えることはできないが、正常な可動性はある |
| 0 | 0 | 検者は子どもの体幹を受動的に回旋させることはできない |

ECAB 5 座位での平衡反応

子どもを座らせる。子どもが自力で座れない場合は、体幹の側面をできるだけ低い位置で支える。片方の殿部に体重がかかるように子どもを傾けたり、片方の肩をそっと押したり、殿部を横に押したり、肩の高さで横に差し出された物へ手を伸ばすように促したりする。頭部、体幹、非荷重側の四肢の反応を観察する。注目する点は体幹と四肢である。この手順を両側少なくとも2回繰り返す。

(a) 左 (b) 右

- | | | |
|---|---|---|
| 3 | 3 | 子どもは非荷重側への体幹の側屈、頭部の立ち直り、体幹凹面の上下肢の外転を示す。子どもは自力で座れなければいけない。 |
| 2 | 2 | 子どもはある程度の頭部の立ち直りを伴った不十分な体幹の側屈や四肢で平衡を保つ動作を示す |
| 1 | 1 | 子どもは頭部の立ち直りを伴う最小限の体幹の側屈を示すが、四肢で平衡を保つことはない |
| 0 | 0 | 子どもは体幹や四肢の修正をしない |

ECAB 6 保護伸展一側方

子どもを座らせる。子どもが自力で座れない場合、体幹の側面をできるだけ低い位置で支える。子どもをやさしく、しかしすばやく片側に押す。子どもが押された方向の上肢の反応を観察する。

(a) 左 (b) 右

- | | | |
|---|---|---|
| 3 | 3 | 子どもは上肢の外転、肘の伸展、手掌での支持で転倒を防ぐ。 |
| 2 | 2 | 子どもは上肢を外転し肘を伸展するが拳で支えたり一貫して転倒を防げなかったりする |
| 1 | 1 | 子どもは上肢を外転するが肘は伸展しない。前腕を着くことがある |
| 0 | 0 | 子どもは上肢の外転や伸展によって転倒を防ごうとしない |

ECAB 7 保護伸展一後方

子どもを座らせる。子どもが自力で座れない場合、体幹の側面をできるだけ低い位置で支える。子どもをやさしく、しかしすばやく後方に押す。子どもが後方へ転倒するのを防ぐ能力を観察する。

(a) 左 (b) 右

- | | | |
|---|---|---|
| 3 | 3 | 子どもは体幹を回旋し手掌で体重を支えるか
両腕を後方に伸ばし手掌で支えることで転倒を防ぐ。 |
| 2 | 2 | 子どもは体幹を回旋し片腕を伸ばすか両腕を後方に伸ばすが、
体重を拳で支えたり一貫して転倒を防げなかったりする |
| 1 | 1 | 子どもは部分的に体幹を回旋するが肘を伸展しない。前腕を着くことがある |
| 0 | 0 | 子どもは転倒を防ごうとしない |

PART 1: PART 1 合計得点 (最大 36 点: 左右の点数と評価が 1 つだけの項目の点数を合計する):

PART II：座位と立位での姿勢制御

子どもの能力を最もよく表す答えに丸をつける。よくわからない場合は、低い方の得点にする。いくつかの項目は活動の時間を記録する部分がある。それぞれの試行の秒数を記録する。この情報は順序尺度を決定するために使用されるが、子どもの能力をより細かく記録するために使用することもできる。

このセクションでは各課題の手本を見せたり、(および/または) 評価用紙に従って指示を出したりする。参加者は各項目の練習を行ってもよい。参加者が指示を理解するのが難しく課題を完了できない場合、2回目の練習を行ってもよい。言語指示や視覚的な指示は身体的な促しを使用してわかりやすくしてもよい。

ECAB 8 座位保持 (両足を床に着けてもたれずに座る)

「胸の前で腕を組んで 30 秒間座ってください。」

(子どもは 30 秒間集中を維持するためにストレスを感じさせない会話をしていても良い。体幹や上肢に保護伸展反応が認められる場合は時間を止めます。)

サマリースコア

- (a) 6 安全かつ確実に 30 秒間座ることができる
- 4.5 監視下で 30 秒間座ることができる、
または座位を保持するために上肢の限定的な使用が必要になる場合がある
- 3 15 秒間座ることができる
- 1.5 10 秒間座ることができる
- 0 介助なしでは 10 秒間座ることができない

(b) 秒数 _____

ECAB 9 座位からの立ち上がり

「手を使わずに立ち上がってください」

(適切な高さのベンチを使用し子どもの股関節と膝関節を 90°屈曲位に維持して足を床に接地させる。3 回施行した中で最も良い点数をつける。)

サマリースコア

- 6 手を使わずに自力で安定して立ち上がることができる
- 4.5 手を使って立ちあがることができる
- 3 数回試行した後に手を使って立ち上がることができる
- 1.5 立ち上がったたり安定したりするために最小限の介助が必要
- 0 立ち上がるために中等度または最大限の介助が必要

ECAB 10 支持なしでの閉眼立位

「目を閉じてくださいと言ったら、じっと立ったまま、目を閉じて、開いてくださいと言うまで閉じたままでいてください。」

(対象者は足を肩幅に開いてじっと立ってもらう。必要に応じて、目隠しを使用してもよい。足部の体重移動と平衡反応は許容範囲内であり、足部が浮いた場合は(支持面から離れた場合)計測を終了する。対象者が静止した足の位置を維持するのを助けるためにテープで貼られた線や足跡が床に設置してもよい。)

3回施行した中で最も良い記録

(秒数を記録し、最も良い秒数を使用して順序得点をつける)

試行 1: _____ ; 試行 2: _____ ; 試行 3: _____

サマリースコア

- 10 安全に 10 秒間立つことができる
- 7.5 監視下で 10 秒間立つことができる
- 5 3 秒間立つことができる
- 2.5 閉眼して 3 秒間保持できないが安定している
- 0 転倒を防ぐ介助が必要

ECAB 11 支持なしでの閉脚立位

「足を閉じて、つかまらずにじっと立っていてください。」

(対象者が止まっている足の位置を維持するのを助けるためにテープで貼られた線や足跡を床に置いてよい。子どもが 30 秒間集中を維持するためにストレスを感じさせない会話をしてよい。足部の体重移動と平衡反応は許容範囲内であり、足部が浮いた場合は(支持面から離れた場合)計測を終了する。)

サマリースコア

- (a) 10 自力で脚を閉じて 30 秒間安全に立つことができる
- 7.5 監視下において自力で脚を閉じて 30 秒間立つことができる
- 5 自力で脚を閉じることができるが 30 秒間は保持できない
- 2.5 介助にて保持可能だが、30 秒間脚を閉じて立つことができる
- 0 介助にて保持可能でも 30 秒保持できない

(b) 秒数 _____

ECAB 12 360° 回転

「その場で完全に1周回ってから止まり、反対にも1周回ってください。」

サマリースコア

- (a)
- | | |
|----|--|
| 16 | 各方向に4秒以内で360°安全に回転できる（合計8秒以内） |
| 12 | 1側のみ4秒以内で360°安全に回転できるが、もう一方は4秒以上で回転を完了する |
| 8 | 安全に360°回転できるが、ゆっくりである |
| 4 | 近位監視または一定の言語指示が必要 |
| 0 | 回転している間に介助が必要 |
- (b) 秒数-合計（左回り+右回り） _____

ECAB 13 支持なしでの段差踏み換え

「踏み台に交互に足を乗せて、4回ずつ乗せるまで続けてください。」

サマリースコア

- (a)
- | | |
|----|--------------------------------------|
| 16 | 自力で安全に立ち、20秒以内に8回完了することができる |
| 12 | 自力で立つことができ、20秒以上で8回完了することができる |
| 8 | 介助なしで4回完了することができるが、監視が必要である |
| 4 | 最小限の介助が必要だが、2回完了することができる |
| 0 | バランスを保ったり転倒したりしないために介助が必要であり、トライできない |
- (b) 秒数 _____

サマリースコア（各項目に応じたポイント）は異なっており、項目の難易度を調整するために特別に設定されている。秒数の実測値を無視して、サマリースコアを追加する。（実際のタイムスコア[項目8、10、11、12および13]は、必要に応じて、別々に使用することができる。）

PART 2： PART 2 合計点（最大 64 点）： _____